

市 研 特別活動 速報

【中学年部会】

発行日 平成29年1月23日

横浜市立小学校特別活動研究会

会 長 高橋 宏明

研究テーマ 明るい未来を切り開く子どもを育てる学級活動の在り方
～集団活動を通して、子どもの自尊感情を高めるためには～

活動名 「ハッピーシェイク係集会2016!～他の係のよいところを見つけよう～」

○活動のねらい

「ハッピーシェイク係集会2016!～他の係のよいところを見つけよう～」の活動を通して、自分の係だけでなく、友達の係のよさや頑張りに気付き、学級のみんなと協力し合っ楽しい学級生活にしようとする態度を育てる。

○テーマにせまるための具体的な手立て

- ・係の活動内容や思いを見付けやすくするために、ペアの係を体験する時間を設ける。
- ・自分たちが知った係の思いを伝えるために、気付いたことをカードに記入し相手に伝える時間をとる。
- ・係の気付いたことを共有できるようにするために集会のプログラムに係調査報告の時間を設定する。

○研究討議・講評から

- ・ペアの係を体験する時間を設定することは自尊感情を育てるのに有効であった。ペアの係に自分たちの係の活動を知ってもらうことで、「友達に見てもらえている。」という実感をもつことができた。一年間、係を通して子どもたちを育てたいという教師の思いの下で、認め合い活動の積み重ねを生かした手立てであった。教師の意図だけではなく、子どもの思いを大切にしながら進めていけるとよい。
- ・カードの言葉の変容から、より具体的に係の思いや過程に気付けるようになり、友達を見つめる視点が育ったことが分かる。カードが個人に返っていくと、自分自身が学級のために役立ったという実感をさらにもつことができる。また、集めたカードが学級目標にどのようにつながっていくのかを振り返ることができる、学級の成長が明確になる。
- ・「見える化」とよく言われるが、それは掲示物だけではない。今回のように他の係を見たり体験したりすることも大切な「見える化」である。
- ・「見て見て。」とよく言うように、子どもは他者から見つめられたい。教師は子どもが何を見てほしいと思っているのかを知り、そこに焦点化しながら見つめていくことが大切である。